

ニュースレター 事業短信

from AIKOH

2018(平成30)年1月19日(金) No.145

<発信者> 社会福祉法人愛光理事長・法澤奉典
043・484・6391(本部) / 043・484・6571(理事長室直通)
(URL) <http://www.rc-aikoh.or.jp/>
(Eメール) mail@rc-aikoh.or.jp

CONTENTS (今月号の内容)

- * 日誌抄録(1頁) : (2017年12月1日～)
- * おもな動き(2頁) :
 - ・共に支える 共に生きる(年頭にあって)
 - ・伊藤前理事に内閣総理大臣表彰 ほか
 - ・職員状況(2017年12月中)
- * 現場の内外で(3頁) :
 - ・2017年から2018年へ・現場風景
- * 情報&ニュース(4頁) :
 - ・なぜ増える?施設での虐待事例
- * マイタウン(5頁) :
 - ・根郷中学校3年生からの手紙
- * 三代目燈台守(6頁) :
 - ・ホリエモンの「暴言」を考える(つづき)

▽日誌抄録(2017.12.1～)

月/日(曜)	記事
12/1(金)	2017年新語・流行語大賞発表:“インスタ映え”“付度(そんたく)” 職員研修会(誤投薬防止:本部第1会議室)
2(土)	理事会(本部第1会議室)
8(金)	サービス(管理)責任者会議(本部第1会議室) 政府、天皇退位の日を2019年4月30日とすることを閣議決定
9(土)	特別国会閉会
10(日)	評議員会(本部第1会議室)
12(火)	職員研修(介護マイスター養成講座:千田ホール)
13(水)	サービス(管理)責任者会議(本部第1会議室)
22(金)	グループ法人協議会(視障センター) / 冬至
23(土)	天皇誕生日
27(水)	施設長会議(本部第1会議室)
28(木)	仕事納め(事業所巡回挨拶)
31(日)	大晦日
1/1(月)	元旦
4(木)	仕事始め
8(月)	成人の日
9(火)	施設長会議(本部第1会議室)
12(金)	法人合同新年会(はちす苑千田ホール)

明けましておめでとうございます。本年も旧年中同様よろしくお願い申し上げます。
 29年前の1月7日が「昭和の終わった日」でした。改元されて「平成」の世も30年目。その時代の終わりが来年の4月末になることが決まりました。2度の大地震を経験したことを含め、「平成とはどういう時代だったか」がさまざまに語り始められることでしょう。
 事業所移転という大事業への着手と実行、そして「平成の福祉改革」を乗り切ってきたわれわれにも「次のステージ」が待っている予感がします。

▽おもな動き

共に支える 共に生きる

年頭に当たり、合同新年会（1月12日、千田ホール）の席上で理事長は職員に向けて、法人として取り組む課題と抱負を述べました。

地域社会の福祉問題を、他人事ではなく「我が事」としてとらえ、また地域関係者や専門職が連携し一体となって課題解決に「丸ごと」取り組むという「共生社会づくり」が“福祉のトレンド”です。福祉が地域社会に住む人びとの生活に直結する営みであることを再認識し、そこに焦点を当てて事業に臨みたいと考えます。

その思いを託す言葉を次のとおりいたします。

「共に支える 共に生きる～地域包括ケアの深化へ～」

園芸棟新築工事計画

法人では、障害者支援事業部日中活動「園芸班」の活動室を新たに設置し、現園芸班活動室を根郷通所センター（めいわ通所部）の活動スペースとして拡張・転用する計画に着手することになりました。設置場所は佐倉事業所敷地南側空地です。

【スケジュール】2018年1月15日 建築確認申請

1月22日 準備工事着手（仮囲い設置）／1月30日 建築確認済証交付

2月1日 着工／3月23日 竣工・引き渡し

伊藤前理事に総理大臣表彰

伊藤和男当法人前理事（千葉県視覚障害者福祉協会会長、日本盲人会連合副会長）が、このほど内閣総理大臣表彰の栄に浴されました

内閣府では12月の障害者週間に合わせて、5年に1度、「自立して社会活動に参加し、他に範を示している障害者、または障害者の福祉の向上に関し顕著な功績のあった個人もしくは団体を顕彰する」という趣旨で、「障害者関係功労者内閣総理大臣表彰」を実施しています。本年度は全国で26件（個人22、団体4）の受賞者が決定し、そのお一人として伊藤前理事が選ばれました。

12月5日、東京・霞が関で行われた授賞式には皇太子ご夫妻も出席され、安倍総理大臣から受章者に表彰状が伝達されました。

心よりお祝い申し上げます。

<p>■職員状況 (2017年12月中)</p>	<p>*採用：2（パート2） *退職：3（正職1・パート2） *2017年12月31日現在：職員現員360人 （正職159／サポート又は常勤嘱託39／パート又は非常勤嘱託162） *育児休業：2（めいわ1・ルミエール1） *休職：1</p>
------------------------------	--

▽現場の内外で

2017年から2018年へ・現場風景

【ルミエール】

暮れ近くには稲毛時代からの入所者やご家族の訃報に接し、皆が悲しい思いも…/12月24日に入社者とご家族を交えて恒例のクリスマス会。親御さんのほかに兄弟姉妹の顔も見られました/第三者評価受審中。近日中に評価結果が報告されます。

【めいわ】

入所者の日常をご家族に理解してもらう方法として「スライド」活用の試み。12月第3日曜日の家族会の折に映像を交えて状況を説明/成人式を迎えたKさん。仲間や職員から祝福されて、まさに「晴れの日」でした。

【リホープ】

年末行事「もみの木会」(24日)ではNHKハート展入選のAさんに法人から記念品贈呈/お正月気分を水を差すインフルエンザという“招かれざる年始の来客”。12日の法人合同新年会にはリホープ職員は参加辞退。1月半ばにはやっと終息に向かいつつあります。

【日中活動】

佐倉市内の障害者の力作を一堂に。市立美術館を会場に「ふれあいギャラリー」が開催され、愛光日中活動の成果(手芸・陶芸など)も出品されました。(12月22~24日)

【根郷通所センター】

12月22日は午前中には利用者全員で「おひさま」の大掃除。カーテンのフック外し、換気扇の掃除、網戸洗いと各人に応じた作業を分担/午後は恒例の忘年会。1年の締めくくりにふさわしく、自分なりの日ごろの「成果」を利用者一人一人が仲間の前で披露。

【グループホーム山王の家】

初めての年末年始を前にクリスマスパーティー(12月24日)。手作りケーキとチキン、そしてサンタクロースの登場、という定番メニューで大変な盛り上がり。オープン2か月で芽生えてきた一体感でした。

【佐倉市よもぎの園】

施設の庭を開放して地域の自治会主催「宮前ローズタウン交流会」(12月2日)が行われました。オープニングには「めいわ太鼓」も参加/27日の仕事納めの日はこの1年の労をねぎらう忘年会と頑張った利用者への皆勤賞の贈呈、そしてお待ちかねの利用者全員への「賞与」。

【はちす苑】

24日は「大忘年会」。「沢山は呑めなかったけど、久しぶりにお酒をいただいてうれしかった」(入居者Sさん)/年末から年始にかけて4人のターミナルケア。そのうちの一人が、年を越された4日未明、静かに生を終えられました。

【佐倉市立南部児童センター】

子育て親子の集い「ひよこクラブ」。12月はクリスマス会。サンタの登場に会場大歓声(中に泣き出す子も)。サンタと一緒にダンスをした後はプレゼントタイム。小学生たちの手づくりサンタ人形に「かわい〜い」。

【佐倉市南部地区学童保育所】

学童保育所で耳にする外国語。スペイン語、ポルトガル語、英語を話す子どもや職員がいるからです。日本での暮らしに慣れてきたとはいえ、皆の前で母国語の歌を歌いながら、こみあげるものがあつたのでしょうか、思わず流れる涙…。

▽情報&ニュース

なぜ増える？施設での虐待事例

障害者虐待防止法の施行（2012年10月）を機に、障害者に対する人権侵害行為の根絶に向けた取組みが強化されています。ただ残念なことに、法施行後、マスコミで大きく報じられるような、施設入所者が犠牲となった事件が発生しています。愛光でも職員対象の研修やコンプライアンス委員会の活動を実施し、人権擁護意識の醸成に努めています。

このほど厚生労働省から、2016年中の障害者虐待に関する集計が発表されています。虐待を受けた障害者が3918人、家庭や職場での認定件数も被害者数も前年より減ったものの、福祉施設職員による虐待は401件、672人で前年より2割近く増え、4年連続で過去最多を更新しているそうです。さらに驚くのは、現場職員を指導する立場の管理者による虐待が、「職員による虐待」のうちの8%を占めており、これを伝える新聞記事では「施設ぐるみで虐待がはびこっている実態があるのではないかと」厳しい指摘をしています（毎日新聞、12月30日社説）。

記事によりますと、被害者の7割近くが知的障害者で、自傷他害やパニックなどの行動障害を起こす人への暴力や身体拘束が特に多いとされています。暴力行為は明らかな虐待ですが、施設の日常において「安全確保」が名目の身体拘束や抑制、狭い空間への閉じ込め、また不用意な言葉づかいなどは見過ごされがちです。それが虐待に当たらないかどうか、第三者からの意見を踏まえた検証が必要です。

指摘されている福祉現場にある「体質」も、一つには外部からの眼が届きにくいことが背景にあると思われますが、「証拠となる記録の隠蔽（いんぺい）を図る、虐待を通報した職員に経営者が多額の損害賠償を求めて「口封じ」をするなどの悪質な例もある」のが事実だとすれば、それではまさに「ブラック施設」です。その意味で、施設が「伏魔殿」などと言われたいためにも、風通しの良い（情報公開と可視化）環境づくりに努めるべきだと思います。

また、「行動障害に関しても、障害特性に合った環境やコミュニケーションに基づく支援によって改善できることが、各施設で実証されてきた。暴力による抑制や身体拘束はむしろ行動障害をエスカレートさせることもわかってきた」という認識が浸透していないとすれば、それは「人材の質」にかかわる問題を含んでいると思います。「悪貨は良貨を駆逐する」という格言も、現場で言い伝えられています。経営者・管理者にも「虐待を許さない」という毅然とした姿勢が求められます。人材不足を理由にサービスの劣化現象が進行しているとすれば、それは福祉そのものの危機と。

あいとひかりのコンサート 2018

ダ・カーポ 公演チケット

発売中!!

料金：3000円（全席自由）

開催日：2018年4月21日（土曜日）13:30～

会場：四街道市文化センター

お問い合わせ：愛の灯台基金事務局（043-484-6391）

▽マイタウン

根郷中学校 3 年生からの手紙

愛光本部所在地、佐倉市山王の事業所に隣接している佐倉市立根郷中学校。長年、生徒さんと施設利用者の交流を続けています。授業の一環として「福祉学習」の時間があります。中学生の施設訪問、教室での福祉学習（講話、点字学習など）を通じて福祉を学ぶ機会になっています。この春卒業を控えた 3 年生が愛光との交流を振り返って感想文を寄せてくれました。

- ぼくは、中学校に入学するまで、福祉についてなにも知りませんでした。しかし中学校に入学してからは、愛光の方がたからいろいろな話を聞き、普段できないような体験をさせていただいたおかげで、福祉に関心をもち、たくさんのことを学ぶことができました。ぼくは、根郷中学校が愛光のとなりで本当に良かったと思いました。
3 年間、福祉について教えていただいて本当にありがとうございました。

- 初めて施設を訪れたときは、不安でたまりませんでした。しかし福祉の授業や部活などで愛光に行くと、毎回皆さんが笑顔で迎えてくださって、とてもうれしかったです。施設に住んでいる方と、直接触れ合う機会がありましたが、体が不自由なのにもかかわらず、一生懸命わたしたちと遊んでくださいました。他の学校ではできないこのすばらしい体験を忘れず、今後の人生に生かせるようがんばります。

- 先日は私たちにさまざまな体験をさせてくださり、ありがとうございました。
愛光訪問は 2 回目でしたが、初めての時は「広い！」と思いました。今回の訪問では緊張してしまい、迷惑をかけてしまわないか、作業体験で失敗してしまわないか、不安でいっぱいでした。しかし実際は利用者さんも職員さんも私たちを優しく、あたたかく受け入れてくださって、いつのまにか緊張も和らぎ、はた織体験も楽しくやらせていただきました。
でも一番楽しかったのは、利用者さんとのおしゃべりです。旅行や愛光秋まつりの話で盛り上がり、とても楽しく良い経験になりました。

- 3 年間、わたしたちにたくさんのお話を教えていただき、ありがとうございました。
中学校に入学したときに比べて、いまのほうが福祉について興味を持つことができていると思うし、より広い視野で社会について考えられていると思っています。
一番印象に残っている福祉学習の授業は、アイマスク体験です。視力を失うということは、身近なことではありませんでしたが、この体験ができたおかげで、どんなことにも親身になって考えられるようになったと思います。この経験ができたおかげで、その後の福祉の授業に対する気持ちも積極的になれたと思います。
ありがとうございました。

ホリエモンの「暴言」を考える (つづき)

「お前のやっていることは、お駄賃もらってやっている子守りと変わらない」

こう言われて、福祉施設に勤めはじめたばかりの私のプライドは大きく傷つけられた。20代頃の思い出である。その記憶を呼び起こしたのが、「誰にでもできる仕事」発言だった。その発言の主・ホリエモンこと堀江貴文氏の一連の“語録”を引き続いて紹介する。

＜大変だから給料が高くあるべきってのは間違いな訳。そして誰でも出来る仕事でも大変な仕事はたくさんあるわけ。そしてそういう仕事は給料高くない。高くしたいなら業務効率化すればいい。タクシー運転手だってそれだけど、稼いでいる人とそうでない人は収入倍以上違う＞

＜…(保育現場の)*ちょっとした取材でも伝統的に行ってるだけで効果測定をしないと必要ないと思われる効率化できる業務はいくつもありました＞* ()は引用者

これを暴言・暴論と片づけられるだろうか。ここにある「効率化」という点で言えば、その指摘に対して、「人相手の仕事に効率化とは何事か」と、つい感情的に反発したくなる場所がある。それはまた「コスト」という言葉に対しても同様だ。要領よく、時間と経費をかけずにやれと言われると、自分が不器用で要領の悪い人間だという負い目を感じているからかもしれないが…。

顧みれば、効率性とか低コストとか、いわばそうした当世風の価値基準を、「福祉の価値基準」とは相容れないものとして、受け入れることを拒んできた私だった。しかし現実にはこの世界にも「効率化」を迫る空気がジワリと広がってきている。ホリエモンはそのことをズバリ言い当てていると思う(本当のことを言われると人は腹を立てるものだ)。資本主義の最先端を突っ走る人物からすれば、福祉の現場は非効率を絵に描いたような業態に見えるのだろう。

＜じゃあ今の保育士の大半がちゃんと出来てるか？出来てないと思うけどな。一生懸命やってます、ってのと出来るかどうかは別の話…＞

言われるまでもなく、「稼いでいる人とそうでない人」「(効率化が)できている人とそうでない人」の違いと言えば、介護分野では、社会福祉法人は介護ビジネスにとっくに主導権を奪われていることから明らかだ。

＜なんども言うけどわたしは保育士をdisってません*。給料が上がらない原因を端的に申したまでで、しかも政治とかに頼る(つまり子育てしたい人がそれ以外の人に税負担を求める)ことなしにそれを実現したらどうかと思ってます＞*「disる」とは「軽蔑する」(disrespect) という意味のネットの世界の俗語表現。

この論争の発端は「なぜ保育士の給料は安いのか」という問題提起だった。その原因をホリエモンは「稼ぐ力」(効率化)が足りないからだと喝破した。正直言って、その指摘は間違っていないと思う。ただ次の発言はどうだろう。

＜そういう感情論では、給料のギャップは埋まらないぜ＞

ツイッターでの一言なので、言葉尻をとらえていることになるかもしれない。だが私には彼の保育(福祉)観の一端がここに表れている気がする。

知られるとおりホリエモンは感情抜きでクールな頭脳で「稼ぐ」ことにかけては並外れた才能をもつ人物だ。

それに対して、福祉も保育も、人を思いやる心意気が根っこにある。むしろホリエモンが排除する「感情論」に支えられているところがある。多分「稼ぎたい」というモチベーションよりもそれがまさっている。

この立ち位置の違いから生ずるギャップは果たして埋まるのだろうか。

(法澤 奉典・のりざわ とものり)